

下関の未来へ』

～合併10周年を迎えて～

下関市は、今年2月13日に合併10周年を迎えます。
合併後の下関市は、皆さんの目にどう映ってきたのでしょうか。
今年の座談会では、それぞれの地区で活動されている6人の市民と中尾市長が、これまでの10年間を振り返るとともに、さらなる魅力ある海峡のまち・下関の実現に向けて、下関の未来への熱い思いを語り合いました。

安部由佳さん

豊北

理容師として働きながら、「豊北ららら^{クラブ}」で、子どもとお母さんが楽しめる活動をしています。平成26年の春から活動を始めた、できたてホヤホヤの倶楽部です。まずは、毎月カレンダーを作り、保育園行事・近隣の催しなどのイベント情報や自分のコラムを載せています。今後は子どもに食べさせたい地元野菜情報なども掲載予定です。さらさら保育園の支援センターなどで、子どもを遊ばせながら皆で作業しています。



一柳武知さん

豊田

豊田中いなほ倶楽部というスポーツ倶楽部に所属しています。普段は梨づくりなどの農業をしています。5年前に設立。稲の“い”、梨の“な”、蛍の“ほ”で「いなほ」なんです。活動はゴルフ大会、ミニトランポリン、スポーツフェスタなど年中色々な行事を行っています。雨が降ると室内ボーリングとして、水を入れたペットボトルを並べ、ドッジボールを転がすなど、工夫をしながら皆さんを楽しませようとやっています。



重枝良明さん

菊川

菊川町の自治連合会の会長をしています。現在、行政と住民のパイプ役として活動しており、各自治会の連絡調整を主に行っています。「小日本」として知られる菊川町では、盆地で皆が仲良く暮らしています。特産物は、菊川そうめんや、イチゴ、ユズ、とろけるような食感のエビイモ、アイガモ農法の米など、たくさんあります。自然も豊かで、とても人があたたかい町です。



『まちの誇りを』

明けましておめでとうございます。

いよいよ合併10周年ということで、今年から新しい次の10年に向かって市では総合計画を立てました。その中で「まちの誇りを下関の未来へ」というテーマに基づいて、各地区からお集まりいただいた皆さんと話をしました。大事な皆さんの話をお聞きして、これからの市政にも役立て、市民の皆さんにも活動をしっかりお伝えしたいと思います。



中尾友昭市長



井上幸子さん

旧下関市

山の田中学校区のコミュニティ・スクールでチーフコーディネーターをしています。例えば美化活動の支援依頼があれば「にじいろ応援団」の登録者に連絡し、子どもたちと一緒に美化活動をします。このように、学校と地域と行政をつなぐ役割を担っています。

他にも、生野小学校と山の田小学校で、放課後や日曜日に子どもが集まって遊ぶ「放課後子ども教室」のコーディネーターとしても10年以上活動しています。



中野竜二さん

旧下関市

桜山小学校のPTA会長を4年しています。桜山小学校は来年100周年を迎えるということで、それに向けてさまざまな歴史を掘り起こし、昔の資料を探したりしています。色々埋もれているものがあるので資料集めは大変ですが、小学校のために活動しています。

平成26年4月からは下関市小学校PTA連合会会長も務めています。市内の小学校52校のPTAのとりまとめ役として、行政とも連携して活動しています。



岡本浩明さん

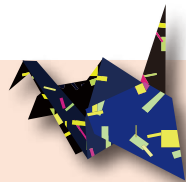
豊浦

川棚グランドホテルで働きながら「川棚温泉まちづくり株式会社」という住民自らが地域経営に参画するために設立した山口県初のまちづくり株式会社に所属しています。川棚を愛したフランスの世界的ピアニスト・アルフレッド・コルトーの物語を生かして毎年「川棚・コルトー音楽祭」を開催するなど、豊浦町の里山・里海が育んできた地域資源と生活文化を生かしたまちおこし・美しい景観づくりに取り組んでいます。



「それぞれの地域の良さ」
「合併後の長所・短所」
「それぞれの地域での活動」

について、皆さんと自由に語り合いました。



コミュニティ・スクールで子どもを育てる

山の田中学校区は、「にじいろネット」という名前で、生野小・山の田小・山の田中の3校が連携し、独自の勉強会やモデル授業を行うなど積極的に活動をしています。他にも、地域で提案して始めた「ぶらっと山の田」や「サスタ山の田」で、地域の大人と中学生の交流・学びの場づくりもしています。おせっかいなおばちゃんがいっぱいいて育つって大事なことですよね。もっと色々な方々の知恵を借りながら、学校や子どもたちの課題に添って取り組んでいきたいです。合併で教育委員会が一つになり、文化や教育を直に共有できるのも、とても良いですね。



井上さん



コミュニティ・スクールは、市内の小・中学校全部に設置してあります。学校だけでなく、地域、家庭の3者が、それぞれ子どもを見守れるようにするためです。井上さんのような方の活躍に感謝しています。現在準備中の「まちづくり協議会」と一緒に、財源的にも活動的にも、もっともって広げて、一緒に頑張っていきましょう。

P T A 会長として教育の場でできること

父親の教育の場が少ないと感じ、「保護者の力で子どもたちのために何かを作りだそう」と、父親の会を始めました。私たちの世代は共働きが多いですし、学校関係者には色々な組織の方々がおられます。その中で横の連携をとるのは難しいですが、皆で協力しながら子どもたちのために頑張っているところです。

小学校P T A 連合会では、各会長さんから「もっとこうした方がいいんじゃないか」など、たくさんの熱い思いを聞きます。そういった皆さんの話をまとめていながら、市全体で盛り上がる何かができればいいなと思っています。



中野さん



私も小学校・高校のP T A 会長をやったことがあります。会長は大変でしたが、結果的には今にとっても役立っていると思います。リーダーシップを取れるようになりますね。中野さんにはP T A の中でしっかり絆を作ってください、これからも学校運営をよろしくお願いします。

ふるさとのためにできることをコツコツと

私は、菊川の子どものあいさつの声の大きさや丁寧さに感心し、同時に誇りに思います。その菊川で、私たちは「ふるさと再発見作業部会」を作りました。行政にしてもらいのを待つばかりではなく、自分たちでふるさとの良さを再発見し、何かできることはないかと探しています。

例えば、小月から豊田まで通っている旧長門鉄道の跡地の整備や、長門鉄道の歴史を写真展などで紹介しています。カレンダーの裏を使い、菊川の名所・旧跡なども紹介しています。こうして、今から少しでも自分たちで立ち立っていきたいと思います。



重枝さん



あいさつの話はとても良いですね。市役所でもあいさつを頑張っています。コンパクトシティと言いますか、小日本菊川は、まとまりが良い町だと思っています。郷土のまちづくりの中で菊川がモデル地区になるように、ぜひ早めにまちづくり協議会を立ち上げて進めていただきたいと思います。



安部さん

「助け合い」から生まれる安心感がある

豊北は、お世話好きの方が本当に多いです。市内でも高齢化率が高いですが、お年寄りの方がとっても元気でボランティア活動なども積極的にしてくださるので、すごく助かっています。皆が皆を知っている地区ですので、例えば怪しい人がいると、皆すぐ発見できます。連携がとれており、防犯面で本当に安心できます。

近年はお母さんが働く家が多いので、家や子ども同士で遊ばせるのが難しく、周りと関わるのが中々できません。だから、ららら倶楽部では、子どもはもちろんのこと、おうちの中の太陽であり華であるお母さんにも楽しく過ごせる時間を作っていきたいです。色んな催しをして、楽しんでいけたらなと思っています。

豊北は市内で高齢化が一番進んでいますが、皆さんお元気だということで私もうれしくなりました。付き合いも大変緊密で、大都会では失われた良さというものが残っていると思います。

最近、道の駅も角島もとてもにぎやかですね。長門市との接点もある自慢の地区ですので、しっかり活動を続けていきたいと思っています。



たくさんの方が足を運ぶ。それが嬉しい

豊田には、蛍や梨の他、豊田町道の駅やみのりの丘など、たくさんの観光資源・観光地があります。私は、合併して観光面で誠に良かったなと思っています。10周年を迎えた豊田町道の駅に、毎年80万人もの方が訪れているなんて、うれしいですね。

いなほ倶楽部の活動は、仲間作りにとっても良いと思います。競技スポーツではありませんから、技術ではないんですね。”楽しくやればいい”ということで、クラブのモットーは「とにかく、明るく元気で、“ありがとう”という言葉をいつも言おう」と、やっています。いっぺん来ると「楽しかったけ、行ってみようか」となり、人と人をつなげる場となっています。



一柳さん

ありがとうございます。豊田のホタル舟は、私は日本一だと思います。梨も有名ですし、農業にも力を入れている地域です。豊田町道の駅の年間80万人は素晴らしいですね。道の駅は、観光するうえで一つの大きな核になります。もっともっとたくさんの方に寄ってもらって、豊田の温泉も楽しんでいただきたいと思っています。



下関ブランドの中で川棚温泉を打ち出せる

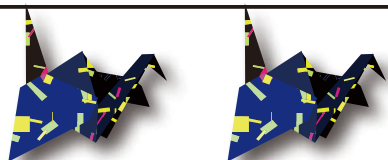
下関の奥座敷・豊浦町は「毛利侯・山頭火・コルトーの愛した川棚・豊浦」をテーマに、豊かな自然美が育んだ物語を生かした文化観光振興に取り組んでいます。合併を機に、ふくなどで有名な下関の中で、豊浦の個性を生かした文化発信ができるようになりました。観光業界に留まらず、音楽アート関係者からも問い合わせが増え、全国から下関の川棚が見つけられやすくなりました。

豊浦の玄関口・川棚温泉駅から雪舟庭までの青龍街道を、美しい街路樹と川棚らしい物語でつなげられたらと思います。豊かな農漁業の営みを感じながら、島・海・里・山・湖・湯を巡る里庭都市のようなまちづくりを産官学連携で目指したいです。



岡本さん

豊浦は4町の中で一番人口が多く、さまざまな名所・旧跡がありますね。中でも、川棚はコルトーホールやパワースポットのクスの森の他、海あり、山あり、温泉あり、と立派なところなんです。ぜひ、アイデアを出して、川棚のまちづくり・道づくりを進めていただきたいと思っています。



「下関に住んでよかった」
「菊川町に住みたい」
と思われるような
市や町になってほしいです。

今、市全体で「まちづくり協議会」設立に向けて進んでいます。市・菊川町の良い点をどんどん出して、同じ“住む”なら下関、そして菊川町に住みたいという人の出てくるようなまちづくりをしたいと、皆で協議しています。そのためには行政と住民がスクラムを組む他、自分たち住民でできることは何かをしっかりと考える必要があります。隣の町の連合会長同士で「皆で手と手を取りあって、お互いに良くしていきたい」と再確認しました。これからも、あたにかい下関市や菊川町のまちづくりができるよう、頑張ります。



今後は
「安心して暮らせる
まちづくり」
を期待します。

人口がすごく減ってきていて、高齢の方ばかりになってしまっています。人口が減ると、お店や金融機関が撤退しますので、今後、私たちが年をとっていくときに、すごく不安になるんですよ。「このまま置いてけぼりになるのでは…」と。

市長もおっしゃったように、人口が増やせるような政策が必要だなと感じています。「地域の方に大きな産業がきたらね」ってお母さんたちも話しています。そういうふうに思っていますので、「安心して暮らせるいいな」と願っています。



の恵みを未来へつなぐ 『峡都市・しものせき』へ



「生活しやすいまち」
に発展していくこと
を期待します。

合併後、豊田町にもさらに観光客が増えるなど、良い効果がたくさんありました。反面、働く所がなくて若者が減り、学校も統廃合で少なくなるなど、人口減は深刻です。もっと人が集まりやすくなるように、豊田町道の駅周辺に大きな広場を整備し、道の駅の駐車場をもっともっと広くしてほしいと思います。子どもの「おぎゃー」という声もたくさん聞けるようになることを願っています。豊田町では「悠遊ウォーク」と「梨の花ウォーク」が楽しめます。梨の花ウォークは、真っ白で純白な、心が洗われるような花の美しさで、清楚な気持ちになりますので、ぜひ、いっぺん来てみてください。





世界に誇る
「文化観光立市下関」
になることを期待します。

海峡・里山・里海の「場所の力」と「人の営み」を生かした景観づくりで世界有数の海峡都市復活を果たせると思います。まずは、地域内分権で各エリアの個性を確立した上で、旧市4町が連携することが大切です。文化観光振興はマーケティングであり総合力です。民間の力を活用した攻めのまちづくりを官民協働で進めるためにも、住民が積極的に地域経営に参画できる仕組みがもっと広がればと思います。住む人にも訪れる人にも心地よい美しいまちでありたい。それぞれの場所の力を生かした美意識と統一感のある景観づくりこそが、交流人口と下関に暮らしたい人を増やすことにつながると信じています。



安全で安心して
暮らせるまちに、
なってほしいです。

災害が起こったときなどに助け合えるように、コミュニティ・スクールを通して日頃からまちづくりを進めていきたいと思います。特に、子育てをしている家庭、子ども、障害のある方、高齢者の方々がいざという時に困らないよう、いつでも「どうしたんかね」って言い合える関係を私たち自身が作っていかないとですね。一人の母として、おばあちゃんとして本当に無事に生きていけるセーフティネットが常に必要だなと感じています。幸い、下関では大変なことは今は起きてないかもしれませんが、いつ、何が起こるか分かりません。そういったときのために助け合えるつながりが必要だなと思っています。

『まちの誇りと自然 輝き海』



下関が、観光で
もっと盛り上がることを
期待しています。

下関駅も整備され、「はい！からっと横丁」「ふくふくこども館」もできるなど、市全体が明るい方向に向いてきたと感じています。食の文化や歴史、豊かな自然を上手い具合に活用して、観光で人を呼び込む。基本はそこだと思っています。きれいな下関の海に行きたいという人も増えてきました。下関に足を運んでもらえるのはうれしいことです。渋滞緩和など交通対策も進めてほしいです。道の駅やカモンワーフ、唐戸市場など、観光で「人が増えてきたな」という印象があり、これから徐々に変わります下関に期待を寄せています。



中尾市長

本市には「自然のもたらす豊かな恵み」「先人たちが培ってきた歴史や文化」など貴重な財産が数多く存在しています。このふるさと・下関で暮らせる幸せを実感して、市民一人ひとりがそれぞれの地区の良いところをもっと広げていって、各地区から下関全体を元気にしていきたいと考えています。そうして、まちの誇りと自然の恵みを未来につなげていって、下関をもっともっと魅力あるまちにしていきたいと考えています。

今年も皆さんにとって、明るい良い年でありますように。今日はありがとうございました。